乳幼児をもつ養育者の絵本購入行動と購入絵本に対する意識と行動

インターネット調査からの検討

○齋藤有¹

(1 聖徳大学)

キーワード：絵本購入，養育者の意識と行動，インターネット調査

How parents purchase picture books? Expectations and actions on picture books.

Yu Saito¹

(1 Seitoku University)

Key Words: purchase picture book, expectation and actions of parents, Internet survey

目 的

近年，ブックスタートの広まりや「赤ちゃん絵本」の登場により，絵本は発達のかかなり早い時期から子どもたちにとって身近な存在となっている。また，養育者と子どもが絵本を読み合うことは，子どもの認知，言語，社会性の発達や親子関係に寄与することが実証的に明らかにされており，著者は，それらの絵本の読み合いの効果を調整するものとして，絵本を読んでいる間の養育者の関わりの個人差について養育者の養育態度と絡めて検討を行ってきた（齋藤・内田，2012など）。

では，市場に多種多様な絵本がある現在，養育者と子どもが日常読み合う絵本はどのように選ばれ，購入されているのだろうか。特に，絵本を購入する際には，購入主体である養育者の期待や意識といったものがそこでの絵本選択に影響し，子どもの発達にもなんらかの影響を及ぼすのではないかと考えられるが，読み合い以前の絵本選択の時点に着目した研究はまだ多くない。そこで本研究では乳幼児をもつ養育者に対してインターネット上での質問紙調査を行い，乳幼児をもつ養育者の絵本購入行動や，購入した絵本に対する意識や行動について明らかにすることを目的とする。

方 法

対象者および手続き 全国の未就学児（0～6歳児）をもつ養育者で，ここ1年以内に絵本購入経験のある1000名を対象とした。インターネット調査会社を通じてインターネット上でのアンケートを依頼，実施した（2018年3月）。回答者の平均年齢36.1歳で，父親が402名，母親が598名であった。

調査項目 購入絵本の書名と出版社，その絵本を購入した理由。その絵本に対する期待や行動等について尋ねた。

結 果

絵本購入行動について 購入した絵本はページ間につながるのある「物語型」絵本が多かったが，情報が網羅的に掲載された「図鑑型」絵本や，いいないないばあなど「遊び」を含む絵本も見られた。購入理由として「子どもにせがまれて仕方なく」は110名（11.0%）のみで，残りは購入主体である養育者自身が「良いと思って」購入していた。

一方，自由記述で具体的な購入理由を分類した（表1）。カイ2乗検定を行った結果，セルの度数の偏りには有意で（ $\chi^2(4)=91.78, p<.01$ ），「子どもの月齢や興味に合っている」「図書館で子どもがその本に興味を示していた」などの「子どもの興味・発達」が，「内容やストーリーが良い」「色彩がきれい」など養育者自身が感じる「絵本自体の魅力」と同等に，絵本購入行動に際して重要であることが示された。

表1 絵本の購入理由（重複あり）

子どもの興味・発達	絵本自体の魅力	意図なし	話題・評判・推薦	その他
356	303	236	170	199

購入絵本に対する意識・行動について 表2・3に購入絵本に対する期待と行動の得点が高い項目と低い項目を記した。養育者は，子どもが絵本を通じてなんらかの成果を得ることよりも，絵本を読んでいる過程でやりとりしたり楽しんだりする過程に焦点を当てていた。

表2 購入した絵本を読む際に期待すること（Max=5）

期待値	購入絵本を読むときの期待	平均 (SD)
上位 3項目	親子のコミュニケーションがはかれる	4.1(0.8)
	子どもの興味関心が広がる	4.1(0.9)
	親子のスキンシップがはかれる	4.0(0.9)
下位 3項目	子どもが社会生活に必要な知識・教養を身につけられる	3.6(1.0)
	子どもにとって基本的な生活習慣の意識づけになる	3.6(1.1)
	子どもが苦手なもの（こと）を克服できる	3.4(1.1)

表3 購入絵本に対する行動（Max=5）

期待値	購入絵本を読むときの行動	平均 (SD)
上位 3項目	読みながら子どもと絵本を通じやりとりする	3.8(1.0)
	声に抑揚をつけて読む	3.8(1.0)
	ページの最初から最後まで順を追って読む	3.7(1.0)
下位 3項目	絵本の内容について子どもが間違ったことを言ったら訂正する	3.3(1.1)
	身ぶり手ぶりをつけながら読む	3.1(1.1)
	子どもが読める文字は読ませる	3.0(1.3)

考 察

本研究より，養育者は自分自身で良いと思う絵本を購入しているが，そこでは子どもの興味や発達に合っているかが重要な観点になっていたことから，絵本購入行動においても，養育者と子どもの間の相互作用が生じていることが推察された。それは，購入絵本を実際に読む際に，養育者がその絵本を通して子どもが何かを学ぶというより，子どもとコミュニケーションをとることを重視していることと関連していると考えられる。今後はこれらの結果が，子どもの発達や年齢によってどう異なるのかについて明らかにするとともに，購入絵本の種類（物語，図鑑，遊び等）によって異なるのかどうかを明らかにすることが課題である。

引用文献

齋藤有・内田伸子(2013). 幼児期の絵本の読み聞かせに母親の養育態度が与える影響：「共有型」と「強制型」の横断的比較 発達心理学研究，24，150-159.

【謝辞】本研究は，JSPS 科研費 17H07071 の助成を受けて行った。調査にご協力くださったすべての皆様に感謝します。